

ダニエル書7章13-14節 「人の子の到来」

1A 人の思いを選んだ国々

1B アダムの罪

2B 神の立てられた政府

3B 権力の乱用

2A 光の御使いに変装するサタン

1B 人間の目

2B 大きなことを語る口

3B 困難な時代、惑わしの時代

3A 御国の到来

1B 御国の宣言

2B 十字架と復活

3B 正義と平和の支配

4B 御国の相続

本文

ダニエル書7章を開いてください、私たちの聖書通読の学びはダニエル書6章まで来ました。今日からダニエル書の後半部分、7章に入ります。ダニエル書において私たちはダニエルの生涯に注目する前半部分を見てきましたが、これからはダニエル自身が受けた幻、将来の幻、預言の部分に入ります。しっかり、シートベルトを締めてください。今朝は、7章13-14節を本文にして御言葉を分かち合わせていただきます。「13 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。14 この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」

ダニエルは、異国の地においてとてつもない巨大な大国の興亡を目の当たりにしました。バビロン帝国の始まりの時に、彼は少年時代であり、友人三人共に、宮廷で仕えるエリート養成と教育を受けました。そして長年ネブカデネザルに仕え、それからベルシャツアル王の時には、彼らが宴会をしている時に人間の指が壁に現れて、文字を書いたので、それをダニエルは解き明かすために呼ばれました。その夜にベルシャツアルが殺されたのです。そしてメディア人ダリヨスに仕え、それから間もなくしてペルシャ帝国の初代王クロスが、即位早々にユダヤ人をエルサレムに帰還させ、神殿を建てるように命じます。ダニエルは、このようにバビロン、メディア・ペルシャという国々の興亡の現場に居合わせていました。

1A 人の思いを選んだ国々

そうした国々について、ダニエル自身が夢を見たのです。かつてはネブカデネザルが夢を見て、それをダニエルが解き明かしたのですが、それは人の像の夢でした。金や銀、青銅、鉄によってできたものですが、それは人間の国の栄華を表していました。しかしダニエルは、同じ国々の興亡を四頭の獰猛な獣として見ていたのです。それは先の国を噛み砕き、踏みにじるような横暴な姿があります。そして、その中に小さな角が第四の獣から生えて来て、それが人間の目を持ち、大きなことを語る口がありました。そしてだんだん大きくなり、他の角三本をへし折るということまでやりました。これが、人間の国の姿です。神が王として君臨される国には正義と平和がありますが、人間の支配する国々においては、獣のような横暴さがあります。ついに、世界に荒廃をもたらす人物、反キリストが現れるというのが、聖書の描いている終わりに起こる世界の姿です。

しかし、主なる神は人間の国々に与えられた権威を、全てご自分の選ばれた王、キリストに集められます。キリストにあって全てのもものが一つに集められ、そして永遠のご自分の国を立てられる計画を立てておられます。イエス様が弟子たちに祈りなさいと命じられた、「御国が来ますように」という祈りがかなえられます。キリストが、今読んだところでは「**人の子**」と呼ばれ、人の子が父なる神から全ての主権と光栄と国が与えられ、神の国を地上にもたらしてくださるのです。

1B アダムの罪

ところで、このような人間の反逆はどこから始まったのでしょうか？エデンの園においてですね。神が、園中央に生えている善悪の知識の木からの実を取って食べてはならないとアダムに言われていました。けれども蛇は妻エバに対して、「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。(創世 3:5)」と言いました。神の命令に逆らって、そして自分自身が神のようになるのだと、神の位置に自分を置こうと誘ったのです。それをエバが聞き、アダムも聞いて、神に言われたことに背いたのです。ここに、ダニエルの見た夢である獣が暴れまわるような世界の始まりであります。使徒パウロは、「ローマ 5:12 ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、..それというのも全人類が罪を犯したからです。」と言いました。人々の罪、そして全ての人々が持っている罪によって、個々人にもそして世界にも死と荒廃がもたらされます。

2B 神の立てられた政府

アダムとエバは、カインとアベルを生みました。人が自分で自分のことを支配しはじめると何が起こるかを如実に表していました。カインが弟アベルを殺したのです。カインはさすらい人となりましたが、彼の子孫から文明が発達した社会が出来ましたが、しかし同時に、殺人を豪語するような暴虐に満ちていました。何か、現代と似ていますね。そして主は、ノアに心を留められて、箱舟を造るように命じられました。ノアとその家族八人のみが箱舟に入り、全世界に洪水が来て、全ての

人が滅ぼされました。そして水が引いて、ノアたちは新しい世界で、新しい生活を始めたのです。

その時に主は、カインのことを覚えておられました。人は罪を持ち、いつも悪いことに傾くものだけども、その悪が拡がるのを抑えるような制度を設けなければいけないとお考えになったのです。「創世 9:5-6 わたしはあなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。わたしはどんな獣にでも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちにお造りになったから。」神が人に、殺人の罪を処刑する権限を与えられました。つまり、政府の原型です。神が、人に剣を与えられて、罪を犯すものを罰する力を与えられました。国、政府があるということは、もちろん人から罪を取り除くことはできませんが、それが極度に広がることを抑えるために神が立てられたものがあります。使徒パウロは言いました。「ローマ 13:1-2 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにもとめられているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。」

私たちは、警官がいることを感謝していますね。数々の法律があることを、神に感謝します。日本の中樞、永田町や霞が関があることを神に感謝します。もし政府が崩壊したら、人が悪いことをしていても、誰も罰することはできなくなります。自分がいくらお金をためても、奪い取る人が出て来ることでしょう。一人一人が武器を持たなければならず、持って立ち上がっても、それがまた争いの元となることでしょう。つまり、抗争であり、内乱です。これがたった今、シリアやリビアで起こっていることです。したがってパウロは、ローマ 13 章でそのような権威にいる人々を「神のしもべ」と呼んでいます。

3B 権力の乱用

しかし、人は罪を持っています。そのように神が人々を治めるように立てておられる主権者たち自身が、自分の上に主権者、神である王がいることを覚えずに自分自身が神であるかのように錯覚します。その時に権力は腐敗します。私たちはダニエル書 4 章において、ネブカデネザルが自分の力や栄光を誇ったところを読みました。それで彼は神の憐れみで獣のようになり、へりくだることができましたが、しかし歴史を通じて、そしてたった今、世界中で権力の座についている者たちが、神の願っておられるように正義や公正をもって治めるのではなく、自分自身が問題を造り出しているようなことを行なっています。それでイエス様が弟子たちに、こう言われました。「ルカ 22:25-26 異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。」

この世界は、国々がそのような権力抗争のために互いに戦うのですが、その本質は、みな神

とその選ばれたキリストに齒向かっているのです。個々人も人生でいろいろなところを歩いていますが、自分を創られた神、そしてその選ばれたキリストに齒向かっています。そしてついに世界は、神とキリストに齒向かうために集まり、戦うようになります。それが、しばしば「詩篇 2:1-3 ハルマゲドンの戦い」と呼ばれるものです。「なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者ともに逆らう。「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」そして、これら集まって来た王たちを、天の雲に乗って来られて、一挙にご自分の口から出る剣によって滅ぼされるというのが、再び到来するキリストの働きです。そのようにして、人間の反逆を終わらせて、神を王とする国を打ち立てられます。そして正義と平和をもたらすのです。

2A 光の御使いに変装するサタン

先ほど、人間の国の戦いの末に、終わりの日には小さな角が生える話をしました。初めは、だれもあまり目に留めない人間なのですが、その知性と口の巧みさによってどんどん影響力を持ち始め、平和を唱えながら一挙に世界を掌握する人物です。この人物が権力の座に着いた時には、世界は破局に向かいます。このようにして、人々が彼の狡猾な政治手法に騙されていきます。7章8節を見てください、こうあります。「私

「私

1B 人間の目

「人間の目のような目」があるということです。目は、いろいろなものを見る知性と言ったらよいでしょうか。角は力を示しており、目はあらゆるものを見通す、知識であります。ですから、この角は人間の視点から、物事をよく知っている人物です。神が見ておられるようにではなく、人間が見てどうなのか？ということでもあります。神ではなく、人のことを思っています。人間主義、ヒューマニズムです。まさに、エバがサタンから惑わしを受けたことそのものです。「創世 3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。」私たちが生きている時代は、何が真実であるかを追求するよりも、自分が何を感じて、自分が何を思っているのか、自分が思っていて、感じていること、自分が見ていて正しいと思えることが全てだと思っています。ですから、サタンの惑わしを非常に受けやすい時代ということが出来るでしょう。神が見てどうなのか、神がどう思っておられるのか、神が何を命じておられるのか、そういった自分の上にある存在とその権威を認めて生きるのが、私たち人間のあるべき姿です。しかし、そうではなく自分の感じていること、思っていることが権威であり、絶対なのです。

そしてさらに狡猾です。「小さい角」でありますから、美談を造ることができます。自分はさまざまな環境によって、弱い存在なのだ。悲劇の英雄なのだ。これもまた、今の時代は脆いです。弱いことや、被害を受けたということを盾にすれば、どんな悪いことも善とされていきます。そして弱さや

小さいことを梃子にして、どんどん力を増し加えていきます。

2B 大きなことを語る口

さらに、「**大きなことを語る口**」であります。これは、「**言葉巧みに人々を操り、自分に引き寄せ、そして神や権威あるものに不遜なことを言う。**」ということです。彼は、口は達者であっても、手を出しません。語るのに上手であり、人々はその話術に引き込まれます。そして、人々を自分の影響力の下に入れていき、一気に権力を掌握するのです。言葉の力というのは、大きいですね。アメリカの大統領トランプ氏は、マスコミは野党であり、彼らはフェイク・ニュースを流すと言って非難していますが、このようなことが現実には起こるとは、私たちは想像さえできませんでした。マスコミが印象操作をすることによる力は、国の三権分立に並ぶ第四の権力と言われるほど大きなものです。

このようにして、一見、良さそうに見せながら、実は最も邪悪なことを行っていくのです。パウロは、「**サタンでさえ光の御使いに変装するのです。(2コリント 11:14)**」と言っています。

ペテロは、偽教師について警告した時に、彼らが権威ある者について尊大にそしることを挙げています。「**2ペテロ 2:10-11 汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそうなのです。彼らは、大胆不敵な、尊大な者たちで、栄誉ある人たちをそしって、恐れるところがありません。それに比べると、御使いたちは、勢いにも力にもまさっているにもかかわらず、主の御前に彼らをそしって訴えることはしません。**」大きなことを語る口ですね。

3B 困難な時代、惑わしの時代

このようにして、神ではなく人が支配していくようになるために、終わりの日は困難な時代になると言われています。「**2テモテ:1-5 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり、見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。**」見えるところは敬虔のように見えても、その実はここに列挙されているように否定しています。

そして惑わしの時代でもあります。「**2テサロニケ 2:9-10 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。**」なぜ、惑わされるかと言いますと、救いの真理への愛を受け入れなかったからです。福音を拒むと、偽物を受け入れるようになります。キリストなしの平和、キリストなしの愛、キリストなしの正義、キリストが全ての源なのにこの方を拒むことによって、他の代替物を求めます。しか

し、それはみな偽りです。

3A 御国の到来

しかし、私たちに希望があります、光があります。人の子が地上に来られるからです。人の支配する国のところに、キリストによって神の支配がもたらされたのです。

1B 御国の宣言

神の国、天の御国が来るというところには、人々にへりくだる心、悔い改めの心が与えられます。バプテスマのヨハネも、主イエスも、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。(マタイ 3:2,4:17)」と言いました。そして主が、弟子たちに対して御国の宣言をされました。「マタイ 5:3-6 心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです。柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。」心の貧しさ、悲しみ、へりくだりが、神の国が到来する時に与えられます。私たちが自分の思い、自分の考え、自分の気持ち、これが絶対だと思っていたところに、神の思い、神の考え、神のお気持ちこそが権威であることを知り、自分がどうしようもないもの、取るに足りない者、もう自分はだめだ、災いだと嘆きます。その心の貧しさこそが、御国が到来した印です。人の高ぶり、高慢に基づく支配に、御子の愛による支配、御国が訪れたのです。

2B 十字架と復活

そしてイエス様は、神の国を十字架と復活によってもたらされます。イエス様ご自身が誘惑を受けられたことを思い出してください、「マタイ 4:8-10 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」イエス様に、世界の栄華や権力が与えられると悪魔が誘いました。しかし、主なる神だけを礼拝するのだと言って、拒まれました。主は、父なる神から世界にある一切の権威を受けます。けれども、それはご自身が血を流して、その命を対価とすることによって、世界を贖うことができるのです。

それで、思い出してください、ペテロがイエス様を生ける神の御子キリストですと告白した後で、主が語り始めたのです。「マタイ 16:21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」主が、私たちの罪を取り除くためにご自身が十字架に付けられて殺され、そしてその死からの甦りによって、罪そのものを葬り去られることをされるのです。このことによって初めて、神の国が本当の意味で広がるようになります。ペテロはイエス様を諷めましたが、むしろイエス様がペテロを諷めました、「16:23 下がれ。サタン。あな

たはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」エバを人の思いに支配されるように惑わしたサタンが、今、ペテロをも惑わしていました。

しかしペテロは、自身がイエス様を三度否むことによって、自分自身の思いや願いがいかにかないかを嫌というほど知りました。主が甦られてから、ペテロに、「わたしを愛しますか？」と三度尋ねられました。他のどんなものに増して、イエス様の言われることを最も大事にしますか？ということです。そして主はペテロを立ち上がらせました。神の国が、こうした復活の主に出会った者たちによって広がり始めたのです。

3B 正義と平和の支配

そして主は、再び戻ってこられます。私たちが読んだのは、その箇所です。「**この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。**」とありました。これは正義と平和が満ちる国であります。「イザヤ 9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」そして、動物界においてさえ、弱肉強食がなくなります。狼が子羊と共に宿り、熊も雌牛と共に草を食べ、獅子も牛のように藁を食べます。そして、「11:9 主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。」とあります。そして、私たちはこの御国を受け継ぐ者になったのです(エペソ 1:11)。

4B 御国の相続

しかし、そのまま受け継ぐことはできません。不法を行なっているのであれば、つまり御霊の働き、御霊による洗いを経験していないのであれば、その人は御国に入ることができません。「1コリント 6:9-11 あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」自分が何も変わっていないのであれば、心に変化がなければ、自分が自分を騙しているようになっています。真実を見ていません。そして神の国には入ることができません。

けれども、福音、良い知らせがらいます。イエスの御名と神の御霊によって、私たちは心が洗われ、聖なる者とされ、そして義と認められるのです。御国に入るのは、主の御名を信じることです。イエスの名に信頼を置く時に、御霊が心から清めてくださいます、洗ってくださいます。そして、神の国を受け継ぐようにしてくださるのです。